

中で、インバウンド観光の

振興により、宗谷本線における外国人観光客の利用の増加を図り、交流人口を確保することは、この地域全体の活性化につながるという観点から、きた北海道全体で、新たな広域観光周遊ルートの設定に取り組むなど、宗谷本線の活性化を含め、様々な交通網の充実を図ろうとしている矢先でもあり、今回のJR側の提案は、その取組や、国が進める地方創生に逆行する動きであると受け止めています。

今後は、今議会終了後に、地元経済界などと、十分に協議しながら、路線の維持に向け、JR北海道や関係する機関へ強く要請していきたいと考えておりますし、宗谷本線の利用客増加に向けた取組につきまして、JR北海道に提案し、共に考えていくことができることを期待しているところです。

### 南地区活動拠点センターについて

地域をはじめ、市民の皆様が待ち望んでいました「南地区活動拠点センター」を、緑2丁目、旧緑球場跡地に、今月1日、総事業費4億5576万円で建設し

ました。

宝来地区、東地区、富岡・はなます地区に次ぐ4番目の施設です。

施設の規模は、鉄骨造2階建てで、敷地面積、建物面積とも、十分な空間と広さを確保したつもりです。

本活動拠点センターは、町内会活動やコミュニティ活動、ボランティア活動など、地域活動の拠点施設であり、同時に、子育てを支援する児童館、学童保育所が併設された複合施設です。

施設の特徴として、全館バリアフリーはもとより、車いすにも対応した「エレベーター」を設置したほか、学童保育所天井部には、除湿、耐火に優れた「珪内珪藻土」を使用し、照明は、全館「LED」にするなど、全ての年齢層の方々にやさしい環境、使いやすい機能を目指しました。建設に当たっては、町内会や学校など、地域の皆様と協議を重ね、多くの意見やアイデアが盛り込まれ、パートナーシップによるまちづくりを進めていく上でも、本施設は、重要な役割を担っていくものとそのように考えています。施設の管理・運営につきましては、緑・こまどり地区の皆様で構成された「南

地区活動拠点センター管理運営協議会」に、担っ

ただき、利用者のニーズに応じた、利便性の高い施設運営に努めていきます。

### ふるさと納税制度について

ふるさと納税につきましては、寄付者の拡大を図るため、昨年11月から、ふるさと納税ポータルサイトにおきまして、インターネットによる申込みや、クレジット決済を導入し、利便性の向上を図るとともに、ふるさと納税をしていただいた市外在住者の皆さまに対し、本市の特産品の贈呈を行なっています。

ポータルサイトにおける取り扱いは、昨年11月から今年3月までの5か月間で、延べ件数で約1万6300件、寄付額は約2億3900万円となっています。その結果、平成27年度のふるさと納税の寄付総額は、約2億6500万円となり、大変多くの皆さまから寄付をいただきました。平成26年度と比較すると40倍の額になり、改めて、ポータルサイトを利用する方の多さや、ふるさと納税への、関心の高さを感じて

います。

なお、皆様からいただいた寄付金については、「つっぺん応援基金」として、あらかじめ定められている7つの分野の事業において、活用させていただきますこととなりますが今年度は、「医師確保対策事業」や「乳幼児医療費助成事業」、「街路灯管理事業」、「放課後学カグングン塾開催事業」など、16事業に活用するつもりです。

今後も、「つっぺん応援基金」として積立てを継続し、本市を応援していただき、皆さまの意向を反映した事業を推進するため、有効活用をさせていただきます。また、ふるさと納税制度の趣旨を踏まえ、これからも多くの皆さまから応援をいただけるよう、PRや事業の拡大に努めてまいります。

このたび、国土交通省観光庁から、「広域観光周遊ルート形成計画」の追加募集があり、時間の無い中ではありましたが、北海道並びに、北海道観光振興機構などのご支援をいただきながら、私が会長を務めてい

### 広域観光周遊ルート形成計画の提案について



旭川などと連携し、「日本のつっぺん。そして白い恋人の島尻、さらには礼文」に、多くの外国人観光客を誘引することを念頭に、宗谷、留萌、上川、空知などを結ぶルートを描きながら、それぞれのコンテンツの魅力力を世界に発信すべく概要をまとめ、先月18日に「形成計画」を観光庁に提出し、23日に東京において、専門家で構成する「検討委員会」を開催し、「ワーキンググループ」に対して、プレゼンテーションを行ってまいりました。当日は、北海道観光振興機構の近藤会長にも同席していただいたところであり、結果につきましては、近日中に発表

る「宗谷観光連盟」が中心となった道北地域の関係自治体や企業、団体等が参加する「推進協議会」を設立し、応募いたしました。国が目指している2020年、外国人観光客4千万人の実現を目指し、観光庁では、外国人観光客にとって最もポピュラーな、いわゆる「ゴールデンルート」だけではなく、国内のいくつかの新たな「広域観光周遊ルート」の形成に、昨年から取り組んでおり、昨年は、北海道で言いますと道東周遊ルートが選ばれましたが、国内7ルートが、国土交通大臣認定を受け、今その整備が着々と進められているところですが、今年度、若干の追加募集をする旨の情報が入り、手をあげたものです。本市としては、北海道への外国人観光客の4割以上を占めると言われている、新千歳、

されるということ、北海道をはじめ関係者の皆さんが、大きな期待をしているところ、きた北海道の観光資源の一つひとつの魅力につきましては、今さら申し上げるまでもありませんが、二次交通の脆弱さが外国人観光客はもとより、国内観光客をも強く引きつけるに至っていない大きな要因と考えており、近い将来に向かつて、きた北海道を観光地として大きく育てていくため、地域の財源だけでは不可能な事業展開からこそ、認定いただき、国の支援を求めたいと考えているところです。

### 6月補正予算(6月追加補正含む)

【一般会計】	3億2,587万9千円	追加
【特別会計】	4,246万7千円	追加
【企業会計】	1,667万円	追加
<b>【補正総額】</b>	<b>3億8,501万6千円</b>	<b>追加</b>

※一般会計、特別会計、企業会計を合わせた予算総額の前年度同期比は3.4%の増となります。

#### 【一般会計補正予算の主な内容】

総務費	2,539万3千円
南極観測60周年記念事業	ほか
農林水産業費	1億671万7千円
畜産・酪農収益力強化等特別対策事業、水産加工施設整備費補助事業	ほか
商工費	2,379万8千円
冬季観光イベント事業、サハリン経済交流事業	ほか
土木費	2,947万5千円
みどり公園整備事業	ほか
消費費	8,843万円
消防車両整備事業	